

がしこじまっぷ

KASHIKOJIMA

英虞湾に浮かぶ周囲7.3kmの島「賢島」。
真珠のふるさとであり、伊勢志摩サミット開催地となった
魅きいっぱいのまち歩きに出かけよう!



賢島は真珠のふるさと

明治26年(1893年)に御木本幸吉氏が賢島の南西にある田徳島(現在の多徳島)に真珠養殖場を創設し(戦後、大崎半島に移転)、明治40年(1907年)に見瀬辰平氏、西川藤吉氏が真円真珠の養殖に関する特許を取得するなど真珠の養殖技術の基礎が確立されて以降、英虞湾では盛んに真珠養殖が行われてきました。また、昭和30年(1955年)に賢島に国立真珠研究所、多徳島には臨海実験所が置かれ、「真珠のふるさと」英虞湾で現在の真珠養殖技術が確立しました。

昭和40年代半ばまで、賢島は英虞湾の真珠養殖資材の基地としても栄え、鉄道開通から昭和44年(1969年)までの間、賢島には「真珠港駅」があったことからも当時の様子がうかがえます。

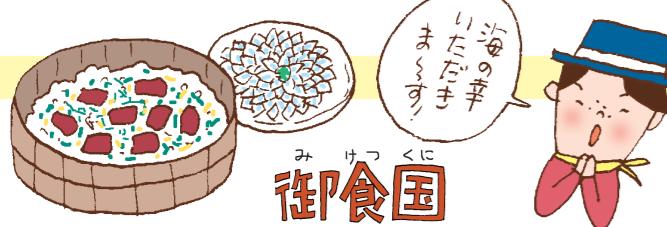




志摩市を訪れたなら、英虞湾に浮かぶ約60の島々と幾重にも折り重なるように突き出た半島の織り成す日本の原風景を見ずには帰れません。

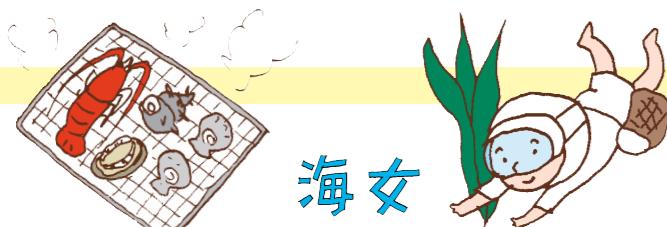
横山展望台では、標高140メートルの高さから日本有数のリアス海岸を誇る絶景が楽しめます。

また英虞湾に沈む夕陽を見るなら、「日本の夕陽百選」にも選ばれている賢島大橋、立神の西山慕情ヶ丘のほか、ともやまの桐垣展望台も人気があります。



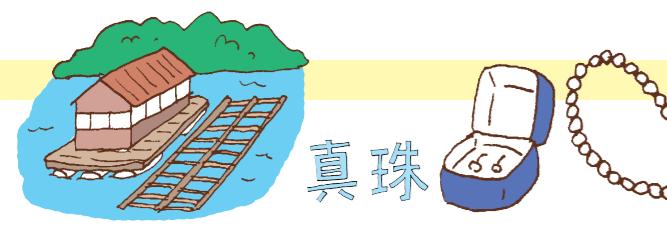
志摩市は、古くから朝廷に食料を献上していた歴史を持っており、今も良質な海産物が豊富です。

全国屈指の漁獲高を誇る伊勢えび、厳正な基準により認定される天然とらふぐののりふぐ、減菌にこだわることで生食好きの食通たちから人気を集める的矢かき、海女さんの手で一つ一つ丁寧に採取されたあわび。その他にも漁師飯がルーツのこね寿司や生産量日本一のあおさなど、御食国の人気食材の数々に舌鼓を打ってみませんか。



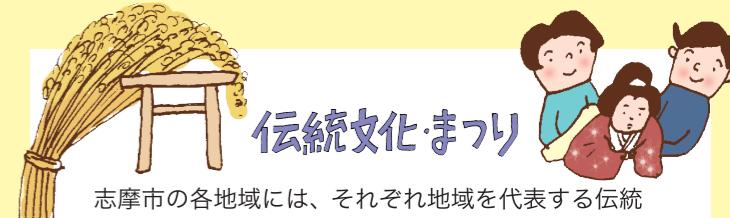
鳥羽・志摩は、古来より海に潜って貝や海藻などを採る海女漁が継承されており、現在その従事者数が全国で最も多い地域です。「鳥羽・志摩の海女漁の技術」は国の重要無形民俗文化財に指定されています。

市内の海女小屋体験施設では、本物の海女さんとお話ししながら食事をとることもできます。



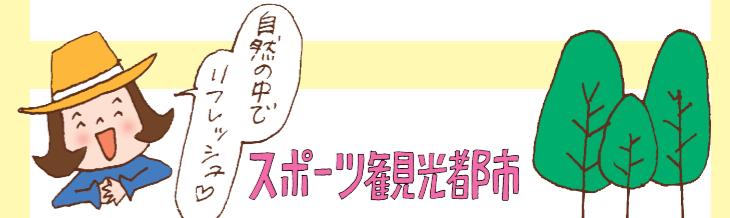
志摩産の真珠の品質は世界的にも名高く、今も養殖産業が盛んです。市内には真珠の加工ができる場所もあり、真珠の取り出しや、取り出した真珠を加工してオリジナルのアクセサリーを作ることができます。

今すぐ行こう! もっともっとある志摩市の魅力



志摩市の各地域には、それぞれ地域を代表する伝統文化・まつりがあります。

中でも「磯部の御神田」と「安乗の人形芝居」は国の重要無形民俗文化財に指定されています。



志摩の豊かな自然はスポーツと相性がよく、温暖な気候も相まって年間を通してスポーツを楽しむことができます。

伊勢志摩ツーデーウォーク（ウォーキング）や志摩ロードパーティ（マラソン）などの人気イベントから、シーカヤックやパークゴルフなどの簡単にできるスポーツまで、様々なスポーツを爽快に楽しむことができます。サイクリングやウォーキングのコースも設定されているので、いつでも気軽に志摩の自然を満喫できます。



全国にある16の参觀灯台（登れる灯台）のうち、市内には大王崎灯台と安乗崎灯台の2つがあります。大王崎灯台は熊野灘と遠州灘の分岐点に建つ灯台で「地球の丸さがわかる灯台」と言われています。

安乗崎灯台は、日本では丸型が基本の灯台の中で全國的に珍しい四角形の灯台です。

また、志摩半島最南端の片田麦崎には、一年中、日の出・日没が見られる麦崎灯台もあります。

志摩市の観光情報はコチラでも紹介しています

志摩市公式 Instagram



@shimacity_official

志摩市観光情報 Facebook



@shima.kanko

製作：志摩市

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS